

# 巨竹が生みだす不思議なパワー

## バリ島の「スマール・アグン」来日

NOA 企画調査室 七林 養宣海

不思議なエネルギーのバリ島

「世界のへそ」と呼ばれるインドネシア、バリ島は一度訪れた者はだれしも一度三度と訪ねたくなるという、不思議なエネルギーをもつ、愛媛県ほどの小さな島です。

それは現代でも村々に残るバリ・ヒンズー教の宗教儀式や、お祭、芸能にも表れているごとく古代人から受け継いできたそれぞの知恵、文化を大切にし、人間と自然界との共生生活を我々に力強く見せてくれる、とても大切な島です。

今から四十億年前地球が始まり、十億年の歳月をかけ生命の源である海を今とほぼ同じ形につくり、さまざまな生物が生まれ海と陸に別れてきました。当然のごとく陸では植物が誕生。植物から虫、魚、鳥、獣へと進化し最後に人間の誕生となるのは皆様もご存じの通りです。この生命の流れの中、人間と自然界との共生を我々日本人、地球人が今忘れかけている、いや忘

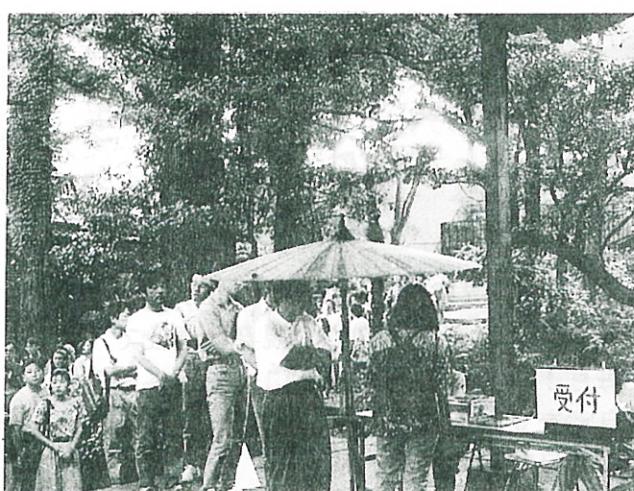
『ジェゴグ』の公演がイ・クトウ・スウェントラ氏率いる「スマール・アグン（壯麗なる光）」により、八月二十六日、日没から文京区お茶の水の湯島聖堂にて開催されました。

主催はNOA。この祭りのタイトルは『MUNAIC OF NAGA（ミュー・ジック・オブ・ナーガ）』。「NAGA」とは海に住む大ヘビ、古代海洋世界の神のことで古代ヘブライ語「ナガシエーナカハ」（chはgの音に発音する）これは「大ヘビ」「ささやき」「神の」という意味を持ち、NAGA（ナーガ）とかNagasho（ナガショル）は「海」を意味し、これらの語源となつた動詞「Nacha（ナガ）」は、「導く」「指導する」「案内する」という意味を持ちます。また「Nacha（ナ

世紀は今環境問題に大変苦しんでいます。森林が破壊され、地球が温暖化し我々の生命が脅かされつつあります。地球生命を守る為にも、人間自身がいち早く生命の流れに気がつき、人間がつくりだす公害や、また生産と同時に消費を極力押さえる方向論を具体的にひとつひとつ各地域から始める必要があります。バリ島は同じ島国の人々にとって一つの心のふるさとかもしません。

### バリ島の伝統音楽

バリ島の伝統芸能といえば誰もが、ケチャ、レゴンの多彩な舞踏と、青銅製の打楽器のアンサンブル、ガムランは日本でも有名ですが、このガムランとひと味違う、いやこれほど高度な音楽性はないといわれている、バリ島の西部ジンブラン地方に伝わる巨大な竹製の打楽器、



▲夕方から始まった受付に行列ができ盛会であった。

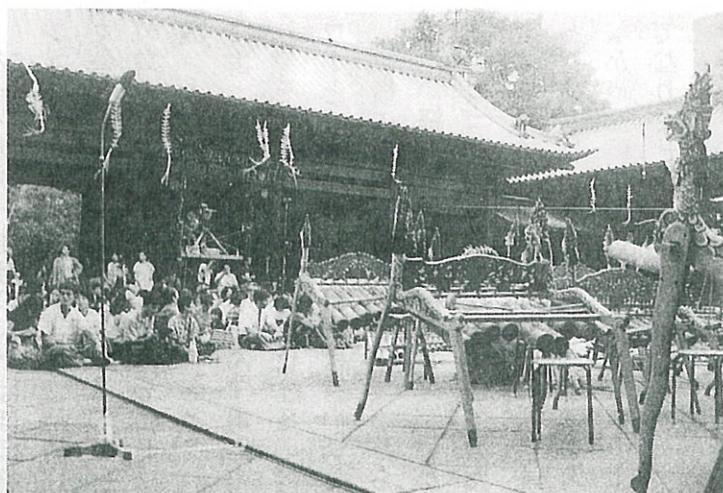
「ガ」」とは太古の船乗り「N(O)A(C)H-I (Noch)」ノアの名でもあります。

四年前からNOAが企画したお祭りを常に支持していただいているオーサワ・ジャパン、(株)ルッペグループ、(株)ルヴァン、レストラン

「風」をはじめ世界の島々にネットワークを持ちエコロジカルな旅を企画製作している(株)アイランドツアーセンター等、NOAのネットワークの皆様、そして今回会場を貸していただきいた湯島聖堂の事務局である斯文会の大変暖かいご協力により実現した次第であります。

読者の皆様もご存じますが、湯島聖堂は、世界の四聖人の一人として知られる思想家、政治家、教育家である孔子(BC五五二~四七九)を祠ってあります。徳川元禄三年(一六九〇年)徳川五代將軍綱吉が上野忍岡にあった林羅山を祖とした林大学頭家の私塾を湯島に移して創建、孔子を祀る大成殿(たいせいでん)や学舎を建立した所であり、これが後の晶平坂学問所となつたのであります。

現在の湯島聖堂は文化庁の管轄のもと、斯文会が管理しております。聖堂の歴史におきましても、このようなお祭りは初めてでしたがNOAの今日の企画主旨「一つの地球を共有する多くの民族が、互いの理解を深め歴史の深みに精神を降ろした伝統音楽を通じ異なる文化との交流を計る」に共感していただき東京の聖地で公



▲日本ではお目にかかれぬ巨竹の樂器

演が開催できる運びとなりました事は我々主催者大変感謝すると同時に、NOAを今まで支えてきてくださった方々に深くお礼を申し上げます。NOAは一つの宇宙の流れを有機的に感じ、感謝し、宇宙の真理に向かって、生命システムの統合を通して、我々人間を含む環境をデザインしてゆくプロジェクトチームです。

八月十四日午後から、今回の協賛、協力スタッフが一同聖堂に集まっていただき、聖堂の案内をさせていただきました。聖堂内の一角にあります神農像も普段は門を閉じたままになっていますが、特別に開かれ祈祷を致しました。その後公演当日の説明会をかね、ネットワークのさ

せて話が後になってしましましたが『ジエゴグ』の演奏の「スアール・アグン」とはどういう芸能集団なのでしょうか?『ジエゴグ』の演奏の中心となっているジニンブラナ地方が地理的にバリ島の中心地、首都デンパサールから百二十キロ、車で約三時間かかる事と、植民地時代に起きた様々な政治的影響により半世紀にわたり、ジエゴグの演奏がすたれてしまったこともあり、バリ島以外の人々は、あまり聞けるチャンスがありませんでした。しかし、イ・クトゥ・スウェントラ氏により、十年前から復興されつつあるわけです。

クトゥというのはバリで五番目の子供に付ける名前だそうで、彼は一九四八年生まれ、先祖は代々ジユンブラン地方の王族としてこの地域を治めてきたということです。舞踏家の父を持つ彼は、デンバサールにある国立芸術大学でインドネシア舞踏を専攻修士課程を修めました。幼少の頃より太鼓をはじめとする民族楽器の演奏や踊りに親しみ、大学卒業後、八二年にトロンボン(踊りながら楽器を演奏する)演技でバリ州のチャンピオンとなります。一九七四年、彼が芸大の学生であった時、欧州公演に参加。オランダの熱帯博物館で偶然ジエゴグの録音テ

さやかなパーティーを催し当日に向かって成功祈願を致しました。



ジュンバラナ地方の人々はほぼ農民であり、ジエゴグを演奏する人々もまた農民です。バリで農民とは農業を専門にするのではなく、農業の営みは当然と考えられ、その他に、音楽、舞踊、大工、画家等の生業をもっています。場所によつては水道はもちろん、電気のない所もあり、そのような村を活性化するのは伝統芸能パワーと、スウェントラ氏は言い切ります。

戦後の日本、特に大手企業をからます日本の政治、経済、社会の指導者達がいかに人間、企業のエゴイズムのなかで生きてきたか、眞の人間の在り方に気づかず傲慢に社会をつくり、ひとりひとりの人間、市民、環境を大切にしてこなかつた事がここにも表れているような気がしてなりません。

そのスウェントラさん、今ではジエゴグチームを五十以上、ジュングラナ地方に育てあげています。彼の計り知れないエネルギーと、ジエゴグを通してのリーダーシップは眞のリーダーといつて過言ではありません。なぜなら彼のめざす道は宇宙の真理に向かつていく精神的プロセスの中で作業が行われているからであります。

それはまるで彼個人の肉体を通し、精神的プロセスのエネルギーが、他の演奏者及びその場に存在するあらゆる自然界の人、植物、動物達と相互に連結し、事が運び、ハーモニーをかもしだし、音（エネルギー）を作り出しているかのようです。またそれがとても自然に我々に伝わってきます。

### 宇宙のリズムとともに演奏

私はスウェントラ氏の行動は眞のマクロビオティック運動の基本と思っております。私個人も一九七六年から玄米食を始め、一九八一年から縁があり日本C-I協会に、時々足を運ばさせていただいておりますが、是非今後日本C-I協会をはじめ読者の皆様と手をつなぎ、今の日本C-I協会の「死」の視点からの自由主義社会でなく、桜沢先生も残している「生」の視点からの自由主義を少しずつつくつていきたいものです。

ジエゴグの演奏は、ただ単に楽符からの音作りをするのではなく、演奏する人間がジエゴグ

という自然界の楽器と一緒に加わり、音（エネルギー）として表れ、宇宙のリズム（祖先の靈、聖人の靈、場のエネルギー）と調和する時、真のパワーが出るのです。その過程において演奏する人間は、いくつもの段階があり、先祖になつたり、動物、植物になつたりするとの事です。ウ氏いわく「その通り、私は先祖になつたり、猿にもよくなり、演奏中はとても気持ちいい」と言つっていました。まさに神の音楽といわざるをえません。

彼らは毎日の営みとして農作業のあと演奏しているとの事。バリでは一晩でも二晩でも演奏が続く時もあり、多くのジエゴグチームがそれぞれのパワーを競い合つたりする（ムバラン）を行つたりしています。その中でスアール・アグンは一番パワフルな集団だそうです。

### 盛況だつた公演

さて公演当日は天候にも恵まれ、早朝から準備が進められ午後からは出店の準備も行われました。日本C-I協会はマクロビオティック関連書籍、オーサワ・ジャパン（株）はジユース、菓子、クッキー類、玄米クリームの試食、レストラン「風」は高きびローフサンド、玄米ごはんほうぼ包み、あわリングドーナツ、あんずケーキ、三年番茶、書籍、（株）グルツベはジニース、パン、（株）J.A.Cは焼きそば（薪

ストーブで実演販売）、トマト、キュウリ、（株）アーバンは野草茶、（株）第三世界ショップは

カ、インドの民族、手芸品及び食品。多田音工房は手作り民族楽器（カリンバ、バンブリード、五音笛、竹鼓、竹琴等多種）斯文会—湯島聖堂インフォメーション、本部（NOA）はスアール・アグンTシャツ、以上が出店し会場を盛り上げてくれました。

また主催者側で当田会場内で出るゴミ処理の方法も考え、出店者側から出るゴミは必ず出店者が責任を持ち回収し、一般から出るゴミは必ずお客様に持ち帰りを願う事にしました。

のリストを把握し、万一の為に会場にゴミ箱を、燃えるゴミ（土に還るゴミ）、燃えないゴミ（土に還らないゴミ）、ビン、缶の四種類を明記し設置しました。主催者側も当日、ゴミ処理班を設け、会場から出るゴミ処理の指導も行い、いわゆるゴミのwork・shopを行いました。当日はタバコなどのゴミが会場にちらばつている一般のイベントとはまったく違いとても指導のいきとどいた結果となりました。

自治体が市民を含め早急に取り組んでいくべき問題とつくづく感じました。

をすませ、エネルギーの高まるなか、演奏が始まりました。

さて日没も近づき湯島聖堂の参道には、和紙で作られた三角錐のやわらかな電燈と孔子像、数カ所には花や果物のお供物、その空氣の中を長いお客様の列が続きました。スアール・アグンのメンバーは全員湯島聖堂の神農像への祈禱

この紙面をおかりして詳しく演奏内容を書く事は避け、十一月末から正月にかけての十二日間のシリーズ番組「赤道音楽、十二日間世界一周」が、NHK衛生第二テレビで放映されますので是非ご覧になつてください。

スウェントラ氏いわく「バリ島にも是非来てください。」また、彼は次の事を伝えました。スアール・アグンの公演収入は国内、国外を問わず、演奏者のみに還元されるのではなく、村の会議により、公共施設の修繕などに使用され共同体の充実をはかるために使用されるという事です。

主催者側からの感想としまして、今回のお祭りは、子供からお年寄りまで年齢層も広く、とても平和な内容のあるお祭りだったと思っております。何分いたらない点もあつたと思いますが、それぞれの役割も問題なくこなし、事故もなく、進行も時間内に收まり、斯文会からも終了後、高い評価を受け、ぜひ来年も開催してほしいとの声もうかがっております。

最終的には合計で一般の家庭用ゴミ袋で二十袋分となりました。燃えるゴミは湯島聖堂のゴミ焼却場で処理できましたが、燃えないゴミ、ビン、缶のリサイクル回収処理は都の清掃局の回収システムでは困難な状態にあり、今後リサイクル回収システムの導入と指導は都、県の各



▶ 異国の神が聖地を訪れる